

2.2 ホームレスにとっての公共図書館の役割

第一福祉大学 人間社会福祉学部 清重 知子 (きよしげ ともこ)

アメリカのホームレスの数は推定年間 350 万人と
言われ、これは総人口の約 1% に相当する⁽¹⁾。この
うち 18 歳以下の児童は推定 135 万人 (約 39%)、世帯
別に見ると児童を含む世帯の占める割合は約 33% で
あり、児童及び児童を含む世帯がホームレス者の内訳
として近年最も増加している。ホームレス化の要因と
しては、安価な賃貸住宅の減少、貧困の拡大、社会保
障の縮小、障害者や DV 被害者への社会的支援の不足
などが挙げられる。ホームレスは経済的困窮の結果住
居を失った状態であるだけでなく、社会的排除、すな
わち、制度的、社会的居場所を失い、異質な存在とし
て周縁化された状態でもある。私的生活空間を失った
ホームレスは公共空間での生活を余儀なくされ、日常
的に誰の目にもとまる存在でありながら、もはや通常
の社会の中に属さない者として排除され生きている人
たちと言える。

ホームレスの姿はアメリカの公共図書館では日常的
であるが、彼らの具体的な利用形態や利用者数などの
実態調査は筆者の知る限り行われていない。現場の実
践報告等によると、ホームレスの公共図書館の主な利
用方法として、情報収集、読書、インターネット利用
など図書館の本来事業の活用と、安全・安心・快適な
過ごし場所、睡眠、洗面、洗髪の間など生活空間とし
ての活用が見られる⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾⁽⁵⁾⁽⁶⁾。ホームレス者の持つ情
報ニーズは過小評価されがちだが、彼らは福祉、住宅、
就労、医療など死活に関わる重要な情報をしばしば公
共図書館を通して得ていることが報告されている。ま
た、公共図書館が提供する無料メールアドレスは彼ら
にとって通信手段であるだけでなく、私的情報の保管
場所としても大変便利で、図書館端末利用者の約 3 割
がホームレス者という推測もある。アメリカのシェル
ターは夜間運営のみの所が多く、彼らは日中の居場所
やトイレ、水道の確保に苦勞するが、公共図書館はそ
んな彼らにとって格好の居場所でもある。また、公共
図書館は実用的な役割があるだけでなく、彼らにとっ
て数少ない地域社会との接点であることも見過ごせな
い。

このように公共図書館はホームレスにとって貴重な
社会資源の一つであるが、公共図書館の彼らに対する

スタンスは、その利用に対し消極的な立場と、積極的
なサービスを提供するという対照的な二つの立場に
別れ、業界としてのコンセンサスに至っていない⁽⁷⁾⁽⁸⁾
⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾。前者はホームレスの体臭や不衛生な身だしなみ
が他の利用者の利用を妨げている点や、睡眠、清拭な
ど図書館の本来の趣旨に反する利用方法、本来福祉事
業が担うべきホームレスへの支援を図書館が行うこ
との矛盾を指摘し、安全で快適な読書環境を維持する
責任を重視する立場である。この考えに立つ公共図書
館は、利用規則や館内巡回の強化を通して不適切と判
断したホームレスの退館を強化する方向にある。こ
の立場が法的根拠とするのは、ニュージャージー州
モーリスタウン図書館が設けた利用規則を不服とし
たホームレス R. クライマーによって起こされた有名
な訴訟「クライマー事件」の判例である⁽¹¹⁾。この裁
判では争点となった当該利用規則そのものの合法性
については一・二審で判断が分かれたものの、両判決
とも他の利用者の利益に配慮し館内を静かで平穏な
場に保つという目的に合致した差別的でない利用規
則であれば、図書館がそれを定める権限を認めるもの
であった。

一方、後者は図書館が歴史的に担ってきた民主・自
由社会の発展への貢献という使命の中にホームレス
との関わりを位置づけ、全ての人々の社会的包含は
図書館専門職の中核的価値にあたるとする立場であ
る。この立場は問題とされるホームレスの体臭、服装、
行為は当事者の選択的行動ではなく、彼らの置かれて
いる貧困という状況であり、これらを理由にホームレ
スの図書館利用を拒むのは社会的排除にあると主
張している。アメリカ図書館協会は後者の立場を表明
しており、1990 年の「貧困者に対する図書館の指針」
の採択や、1996 年の「飢餓・ホームレス・貧困対策
委員会」の設置などを通して、貧困者の民主社会への
完全参加の推進を図書館の目標として掲げている⁽¹²⁾。

80 年代からのホームレス者の増加や前述のアメリカ
図書館協会の指針を受けて、ホームレスに特化した
サービスを提供する公共図書館が増えているようであ
る。具体的な実践としては、その地域の医療・福祉・
住宅サービス等に関する情報資料集の作成、各種行政

※本稿は、国立国会図書館の 2006 年度調査研究事業の成果物である。

手続きの申請用紙の設置・配布、福祉関連相談窓口の設置、シェルター内の読書コーナーの設置、ホームレスの日常に即したりテラシープログラムなどが報告されている⁽¹³⁾⁽¹⁴⁾⁽¹⁵⁾⁽¹⁶⁾。また、増え続けるホームレス児童の情緒的発達や教育の問題が社会的関心と呼ぶ中で、司書がその専門性をこの領域で発揮することへの社会の期待と専門職者の役割意識が高まり、シェルターに住む児童を対象とした様々な図書館サービスが普及している⁽¹⁷⁾⁽¹⁸⁾。実践事例としてはシェルターでの本の読み聞かせ、読書コーナーの設置、児童の学齢に合った図書の選定・紹介、保護者に対する読書教育などがあり、こうした実践が主要な公共図書館の少なくとも3分の2によって行われていると見られる。これらの取り組みの中で強調されているのは福祉領域との連携の重要性であり、福祉事業主体と図書館の協同事業や人材交流、相互研修などが進められている。今後更にホームレスに対する図書館の役割について議論を深めるに際し、こうした取り組みの実態調査や効果の実証的検証が求められよう。

- (1) National Coalition for the Homeless. "Facts About Homelessness". <http://www.nationalhomeless.org/publications/facts.html>, (accessed 2007-02-04).
- (2) Hersberger, Julie.; De la Pena McCook, Kathleen. The Homeless and Information Needs and Services. Reference & User Services Quarterly. 2005, 44(3), p.199-202.
- (3) Flagg, Gordon. Hooking Up the Homeless. American Libraries. 2000, 31(5), p.38.
- (4) Grace, Patrick. No Place to Go (Except the Public Library). American Libraries. 2000, 31(5), p.53-55.
- (5) Lesley, J. Ingrid. "The homeless in the public library". Libraries and Information Services Today: The Yearly Chronicle. 1991.ed., Chicago, American Library Association, 1991, p.12-22.
- (6) Rogers, Michael. Infotech: The Homeless Take to the Net Using Library Connections. Library Journal. 1999, 124(7), p.27.
- (7) Hersberger, Julie.; De la Pena McCook, Kathleen. The Homeless and Information Needs and Services. Reference & User Services Quarterly. 2005, 44(3), p.199-202.
- (8) Buschman, J. et al. "Theory and Background". Venturella, Karen M.(ed). Poor People and Library Services. McFarland, 1998, p.16-34.
- (9) Cronin, Blaise. What a Library is Not. Library Journal. 2002, 127(19), p.46.
- (10) Simmons, R. C. The Homeless in the Public Library: Implications for Access to Libraries. RQ. 1985, 25(1), p.110-120.
- (11) 川崎良孝. ホームレスの図書館利用と公立図書館の基本的役割: クライマー事件、修正第1条、アメリカ図書館協会. 京都大学教育学部紀要. 1996, (42), p.53-72.
- (12) American Library Association. "Library Services for the Poor: ALA Policy Manual". <http://www.ala.org/ala/ourassociation/governingdocs/policymanual/servicespoor.htm>, (accessed 2007-02-04).
- (13) Flagg, Gordon. Hooking Up the Homeless. American Libraries. 2000, 31(5), p.38.
- (14) Grace, Patrick. No Place to Go (Except the Public Library). American Libraries. 2000, 31(5), p.53-55.
- (15) Lesley, J. Ingrid. "The homeless in the public library". Libraries and Information Services Today: The Yearly Chronicle. 1991.ed., Chicago, American Library Association, 1991, p.12-22.
- (16) Dotson, M. et al. "Programs in Shelters and Public Housing". Venturella, Karen M.(ed). Poor People and Library Services. McFarland, 1998, p.126-151.
- (17) Carlson, Pam. et al. Libraries can serve homeless children. Journal of Youth Services in Libraries. 1994, 7(3), p.255-271.
- (18) Dowd, F. S. Homeless children in public libraries: A national survey of large systems. Journal of Youth Services in Libraries. 1996, 9(2), p.155-164.